

ぶれない自分がつくられた



Y A G E  
R O U P

「根拠なき自信を持って、ポジティブに生きよう」と呼びかける宇佐美進典さん

部に合格。卒業後、待遇も居心地もいいコンサルタント会社に入社したものの、2年で退職する。「いわゆるいい学校を出て、いい会社に入って出世するというレールから降りて、自分を解き放ちたかった」

ベンチャー企業に転職後、インターネットの検索エンジンの会社を設立するが、失敗。しかし、あきらめることなく、「インターネットを使ってすごいことをやろう」と、99年10月に今の会社を設立した。

成功のコツを尋ねると、「運と縁」と謙遜するが、「どんなことが起きても、乗り越えられる」という芯の強さが社員を引っ張る。「高校時代に自己主張の強い友人に囲まれたことで、ぶれない自分がつくられた」

大学の技術や研究成果



「生徒にひたむきに向き合ってくれる先生ばかりだった」と振り返る郷治友孝さん

を使ったベンチャー企業に投資する「株式会社東京大学エッジキャピタル」(UTEC、東京都文京区)の社長、郷治友孝さん(44、91年卒)。

東京大学法学部を卒業し、通商産業省(現・経済産業省)に入省、ミスタンフォード大学で経営学修士号を取ったエリートだが、「なんの後悔もなく」通産省をやめた。

きっかけは自分で作った法律だった。「投資事業有責任組合法」。ベンチャー企業への投資についての法律だ。この法律に基づき、東大の支援を得て設立したのが、UTEC。自分で作った法律を、大学の研究を事業にするベンチャー企業への投資で、実際に成り立たせてみたいと考えた。

東海中学時代は「あまり素行は良くなかった」と笑うが、高校1年生の時、アメリカカンファットボール部の練習で首を痛め、部活をやめてからは勉強に打ちこんだ。「先生たちは、普段はのびのびとやらせてくれたが、いざという時は思いつきりしかってくれた。やるときはやるというけじめを教えてもらった」

現在、東大大学院工学系研究科博士課程で、情報工学を勉強している。「新しいことに挑戦するほど、勉強が必要だと感じる」(谷野朝香)